



# さかもと



さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

横浜市立坂本小学校 校長 荒井 正史

校長 荒井 正史

私の初任校は、鹿児島県始良町立始良小学校です。始良のまちは豆腐が特産物で、多くの地域・保護者の方が開いてくださった着任式では、大きな豆腐を食べることで「先生」として受け入れられました。地域・保護者の方々は、「わたしたちのまちの先生」として歓迎してくださり、学校の教育活動にもたくさんの場面で支援をしてくださいました。地域・保護者・学校が一体となって、子どもたちを育てることができ、地域・保護者の方々は私にとってパートナーでした。4年後、横浜市の小学校に着任をしますが、教育活動のすべてを教職員だけで抱え込もうとしている印象で、地域・保護者の方々ととの関係は希薄でした。特に保護者の方々と、何か問題が起きたときに話をする関係になり、「〇〇さんの保護者から電話です」と言われるとドキドキしてしまうようになっていました。振り返ると、私のこうした気持ちは、子どもたちにも影響があったように思います。

5年後、私はロサンゼルスに留学をしました。教育学を大学で学ぶと同時に、昼間はさまざまな小学校にアシスタントとして赴きました。ロサンゼルスは地区によって、まちの雰囲気異なります。学校の雰囲気も異なります。大きな差は地域・保護者の方々のボランティアです。多くの地域・保護者の方々が支援をしてくださっている学校は活気があり、子どもたちも安心して過ごしていました。逆に、地域・保護者の方々の支援がなく、先生だけで教育活動を行っている学校は、子どもたちも落ち着かず、先生方も疲弊していたのは顕著でした。それでも、ランチタイムはこの学校でも地域・保護者の方々が子どもたちの支援をしており、アメリカの先生方に「日本の担任の先生は子どもたちと一緒に給食を食べていて、一日中子どもたちと一緒に過ごしている」と話すと、「先生だけでなく子どもたちにとっても、それはアンハッピーだ」と話をされたのを覚えています。

その後、私の学校経営方針は一貫して、地域・保護者・学校が一体となって子どもたちを育てることができる学校です。坂本小学校に着任をさせていただき、何度も学校だよりで書かせていただいています。地域・保護者の方々があたたかく、「わたしたちのまちの子どもたち」として一緒に子どもたちを育てることができる土壌があると感じています。

一方で、今、校長として悩んでいるのは、教員不足に直面していることです。本校も例外ではなく、今年度フルタイムの教職員の配当が2名減りました。産育休や休職に入る先生がいても、以前は臨時採用の先生が着任されましたが、人事を所管する教育委員会事務局には、市全体の教員不足の中で、残念ながら学校の要望をすべて叶えてもらうことはできませんでした。「子どもたちにいつも笑顔で向き合うことができる教職員」を学校経営の柱の一つとして取り組んでいます。ひと昔前と比較しても、一人でたくさんのお話を抱え込んでいる教職員の現状は非常に厳しいと実感しています。こうした現状のなか「子どもたちが安心して過ごすことができる坂本小学校」にするために、私がパートナーとしてお願いできるのは、これを読んでくださっている地域・保護者の皆さまです。皆さまと一緒に大切な子どもたちを育てていただきたいと切に考えています。子どもたちが多くの方々に見守られていると安心できる学校にしていくために、坂本小学校の子どもたちが安心して育つことができるために、皆さまとチームを組ませてください。ご多用のなかとは思いますが、子どもたちのためによりしくお願いいたします。

## お知らせ

### 〇橋本 直行教諭の病気休暇について

12月下旬より、橋本直行教諭が病気休暇に入りました。橋本教諭が担当していた国際教室や特別支援教室（チャレンジルーム）は、飯井武司主幹教諭、栗田春香教諭、内田七海非常勤講師が分担して行います。